

# ケーブルテレビによる防災情報の発信



## DATA

- 主な連携先・メンバー  
京都府京丹波町のみなさん/京丹波ケーブルテレビ
- 活動地域  
京都府京丹波町
- 活動期間  
2015年度～継続中
- 活動資金  
京都府「1まち1キャンパス事業」(2016年度～2019年度)

## 活動の目的

- 1 ローカルメディアを活用して地域の防災力を向上させること
- 2 地域の活力、福祉力、防災力を、相乗的にアップさせていくこと

## 連携にいたる経緯

ケーブルテレビで学生が撮影や編集を実地体験してみるという端緒から大きく飛翔して、防災番組の連続的な発信、防火キャンペーンCMの発信、音声告知放送を活用した防災情報の発信、町の広報誌でのコラム掲載など、活動が年々発展してきている。

## 活動内容

災害の経験が少ない中山間地で、しかも少子高齢化が進む中であって、「防災だけ」を生真面目にプロモートしようとしてもなかなかうまく伝わらない。そこで、大学生の若い感性を生かして、フレッシュな防災情報を身近なローカルメディアを通して、ねばり強く発信していくことにした。

「安心ほっとステーション」は、学生と消防署員のコラボによる、暮らしの安全・安心に結びつく防災情報番組。「安心ほっとさん」という“身近なお手本”を紹介するコーナーも評判を集めている。その他、住民参加のドラマ制作などにもチャレンジ中。「火の用心CMキャンペーン」は、住民がカメラの前で拍子木を鳴らして防火の宣言をする参画型のシリーズ。毎日6回、1週で42回放送すると次のグループにバトンする。老いも若きも、教育関係者も福祉関係者も、町民がこころひとつに取り組んでいる。そのほか、ケーブルテレビネットワークのサービス網を駆使して、音声告知放送を通して「防災ひとくちメモ」を放送する取組みなども展開している。



## 活動の成果

- 1 学生が制作した防災情報番組はすでに50本を超えている
- 2 火の用心CMにはのべ1,400人の町民に参画いただいた(全国自治体広報コンクール総務大臣賞受賞)
- 3 2018年度に社会安全学部と京丹波町は防災まちづくりに関する包括連携協定を締結

## 今後の課題・目標

- 1 京丹波町質美地域における交流を深化させ地域活性化策を模索したい
- 2 京丹波町内の小学校との連携を模索して教育支援を図りたい
- 3 局所雨量観測プロジェクトを土砂災害警戒の体制強化につなげていく

## 教員紹介



■ 社会安全学部 准教授

近藤 誠司  
Seiji Kondo

日本で唯一の「災害ジャーナリズム論」のゼミを開講。外国人大学院生も共に学ぶ。ぼうさい甲子園グランプリ、レジリエンスアワード金賞、学長奨励表彰3年連続受賞。テレビ、ラジオ、新聞等で、学生みずから情報発信。レギュラー番組も数多い。